

GIS を用いた災害福祉教育プログラムの開発と実践 ー演習-実習の連動による新たな福祉人材育成手法の検討ー

1. 研究の目的

(1) 自然災害の多いわが国において、災害時の社会福祉とその具体的な援助行動の形態としてのソーシャルワークは、災害医療や災害看護と同様に研究が強化されるべき分野であり、それを担う人材の育成は平常時から促進して取り組むべき課題となっている。

本研究では、このようなソーシャルワーカー養成教育における今日的課題を背景として、GIS(地理情報システム)を用いた「災害福祉教育プログラム」と「学習支援コンテンツ」の開発、実践研究を行うことを目的とした。

2. 研究の計画

(1) 研究初年である 2022 年度は、災害時ソーシャルワークにおけるコンピテンシーモデル開発に向けた基礎資料を得るため、①災害福祉関連文献・資料の検討、②インタビュー調査を行った。

①災害福祉関連文献・資料の検討

災害ソーシャルワークに関連する研究論文や実践報告、各職能団体の活動報告書などの資料を精読した上で、災害時特有のソーシャルワーク活動に関する記述を抽出し、【情報】【判断】【行為】に分類し、整理した。

②インタビュー調査

災害被災地で福祉的支援の活動経験からとらえた災害時に必要な社会福祉専門職のコンピテンシーモデルの開発に向けた基礎資料を得ることを目的とし、下記2点の条件を満たす対象者3名を対象にインタビュー調査を行った。

- ・ 災害被災地における福祉的支援活動のリーダー経験を有していること。
- ・ 災害支援活動者を対象とした研修など人材育成に従事していること。

調査方法は90分程度の半構造化面接で、調査内容は、下記4項目について聞き取りを行った。

- 1) 災害時の福祉的支援活動の実際について
 - ・ どのような課題が生じていたか？
 - ・ 課題の解決に向けてどのような活動（取り組み）をしたか？
- 2) 災害時の社会福祉の役割や機能について
 - ・ 責任や役割を果たすためにどのようなことを心がけて行動したか？
 - ・ その活動を行っていく上で阻害要因となっていたことは？
- 3) 被災者支援、被災地支援の効率をあげるための工夫や実践について
 - ・ 被災者に対する働きかけなど支援活動の成果をあげるための戦略や方策は？
 - ・ 災害時福祉的支援に必要な情報を収集し活用、発信するために工夫したことは？
 - ・ 被災地の混沌とした状況の整理や解決のために工夫したことは？
 - ・ 災害支援チームによるアプローチのためにどのような工夫や実践を行ったか？
- 4) 災害支援に携わる人材の育成、教育について
 - ・ どのような人材が災害時に必要と考えているか？
 - ・ どのような価値観を持ってほしいか？
 - ・ どのような知識を習得させたいか？
 - ・ どのような技術を身につけさせたいか？
 - ・ そのためにどのような教育実践を展開しているか？
 - ・ 教育実践上の課題は何か？

3. 研究の成果

(1) 災害福祉関連文献・資料の検討結果

実際の経験に基づいた具体的な災害時の社会福祉専門職の役割や機能など災害時の社会福祉専門職のあり方を提言するとともに、災害福祉に関する教育プログラムを構築に資する基礎資料を得ることができた。

①災害時ソーシャルワークの展開に関する要素として下記一覧のように整理できた。

【情報】	支援活動を阻害した要因 所属先包括および関連施設の被災状況 要援護者の状況 ソーシャルワーカーが介入した（している）状況や対象者 災害時要援護者に関する情報の不足 被災者の心理的ストレスに関する状況把握 複雑化・長期化する支援困難ケース
【判断】	事業所が直面した課題と対応 専門職の支援活動基盤 専門性・価値・思い ソーシャルワーク援助技術・支援方法 震災及び原発事故に伴い生じた新たな課題 ソーシャルワークの視点や方法 多職種協働で支援を展開していたが職種間で支援方針の相違
【行動】	原発避難者の受け入れ 安否確認と避難誘導支援 多機関との連携・協働による支援 共助による要援護者支援 多機関・多職種連携・チームアプローチ 心のケア 災害への備え 災害ボランティアとの協働 地震直後は所属する事業所の職員として活動 相談支援専門職チームの一員としての活動を継続

②インタビュー調査結果

面接は、対象者の同意を得た上で、ICレコーダーで録音、逐語化し、テキストマイニングの手法で分析し、下記一覧のように重要語句を抽出できた。

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
災害	93	科目	18	派遣	12
学生	50	ボランティア	16	報告	12
地域	48	人材	16	社会	11
状況	41	仕事	15	団体	11
課題	37	機能	14	日常	11
自分	37	施設	14	理解	11
大事	35	取り組み	14	ニーズ	10
活動	33	調整	14	学部	10
一緒	30	コミュニティ	13	関係	10
意味	29	プロジェクト	13	子供	10
福祉	29	現地	13	大学	10
感じ	28	考え方	13	知識	10
生活	27	東日本大震	13	防災	10
対応	24	意識	12	様々	10
必要	19	行政	12		

4. 研究の反省・考察

(1) 研究初年度である今年度は、分析対象とする言語データの収集が主目標であったが、おおむねデータ収集を終えることができた。一方で、収集データの分析には着手できなかった点が反省点である。2023年度は、2022年度調査で収集できたデータを対象として、下記2点の方向性で分析を進めていくこととする。

また、今後の研究全体の推進方策としては、収集データについて質的研究を通じて分析し、災害時ソーシャルワークの理論と実践の体系化を試み、災害福祉教育に含むべき事項を明らかにし、災害福祉教育プログラム開発へと発展させていく。

①【情報】－【判断】－【行動】の構造化

3つの主要概念に基づいてカテゴリー化されたデータは、行動に至る思考プロセスを明確にするために、【行動】につながる【判断】内容と、活用した【情報】に関する要素間の関係性を明らかにするとともに構造化を図る。

②災害時ソーシャルワークの体系化

得られた言語データは、より精細な内容分析およびデータに密着した分析から独自の理論を生成することに適している点から、質的統合法やグラウンデッド・セオリー・アプローチなど方法を採用し、質的分析を促進する。

5. 研究発表

- (1) 学会誌等
なし
- (2) 口頭発表
なし
- (3) 出版物
なし